

教育目標(めざす児童生徒像)

かしこく やさしく たくましい 児童の育成

- ・自ら学ぶ子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・最後までやりとげる子ども
- ・健康で明るい子ども

今年度の指導の重点

- ・基礎学力の習熟を図り、学ぶ喜びを体験させる
- ・互いに認め合い、励まし合う態度を育てる
- ・根気よく、責任をもってやりぬく態度を育てる
- ・健康で安全な生活態度を育てる

児童に提示する具体的目標

- ・チャイムが鳴ったらすぐ教室に入る
- ・先生や友だちの話をしっかり聞く
- ・相手を大切にした言葉づかいをする
- ・一生懸命そうじをする
- ・うかばは歩く

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国

- ・国語A・B、算数A・Bともに正答率が全国平均を上回っていた。
- ・国語Aの正答率は県・全国平均よりも大きく上回った。
- ・国語Bの正答率は県平均を大きく上回り、全国平均より高かった。
- ・算数Aの正答率は、県平均を大きく上回り、全国平均よりも高かった。
- ・算数Bの正答率は、県・全国平均を上回っていた。

県

- ・国語、社会、理科については、県平均を上回ったが、算数については、県平均並みであった。

【学習状況調査の結果】

家庭学習はしっかり取り組めており、県や全国よりも高いレベルであった。

テレビゲームの時間で、県の調査では1時間未満と答えた子どもが多く、よい意味で県の平均を上回った。

テレビの視聴時間については、2時間以上の回答率が高い状況にあった。

「あいさつをしている」と答えた子どもの割合は、県の回答と同じように高かった。

約3割の児童が1時間以上の読書に取り組んでいると回答し、県・全国よりも大きく上回っていた。

「自分の考えを説明したり、文章で表現するのは難しい」と回答している子どもが多く、県・全国調査の回答とも同様な結果が見られた。

「落ち着いた雰囲気の中で学習できたか」の間では県平均を下回っていた。

「自分にはよいところがある」の回答は、県・全国の回答と比較し低かった。

成果と課題

朝学習、ドリル学習などの日頃の基礎的な学習成果が、学力調査の結果として表れていたと考えている。

「授業中に話し合いを持つ」「自分の考えを持つ」などは、上向きのよい傾向にある。

算数では、小数の計算、概数の理解などが具体的な課題である

「説明する」「文章で表現する」などの設問には苦手意識があり、課題が残る。

今後も落ち着いた学級の雰囲気づくりに努める必要がある。

自分や友だちのよさを見つける努力が必要である。

家庭学習にはしっかり取り組んでいる。

ゲームの時間が少ないのはよい傾向である。

課題に対応した改善方法

朝学習やドリル学習をすることによって、さらに漢字の読み書き、計算等の基礎基本の定着を図る。

自分の考えを書く活動を取り入れ、表現力を高める。

ペア・グループ学習を取り入れ、伝え合う、学び合う場を設定する。

到達度確認テストや過去の出題問題を活用し、応用問題に慣れる。

「話形」を一つの手段として、説明する力をつける。

苦手な単元の教材研究や職員同士の研究の交流を図る。

授業開始の遵守(ベル着)、次時の学習準備をしてからの休憩など、学習規律の指導も行う。

自分のよさに気づいたり、友だちを大切にしたりする生活目標や月目標を設定し、取り組みを行う。

取組の検証方法及び検証時期

必要に応じて、到達度確認テストや過去出題問題をやる。

児童に学習のふりかえりアンケートを実施する(5・7・12・2月に実施)

上記の結果を受けて、職員研修やさらなる改善方法の見直しを図る。

達成目標(数値目標)

国語・算数とも県平均、全国平均レベルを維持する。

「説明できるようになった」「文で考えを書き表すことができた」児童の割合を上げる。

「自分にはよいところがある」など児童の自己肯定感を育てる。

テレビ等の視聴時間を少なくする。